

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立若楠小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>学校評議員会において学校の現状や今年度の取組について、説明したところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、3つの取組内容でB評価をA評価に変えていただいた。そのため、ほぼ全ての項目で「A：十分達成できている」という結果になった。</p> <p>全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。次年度に向けて、以下の点を改善していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師だけでなく児童自身が、単元を通して身に付けたい資質・能力を見通す「学びのプラン」を作成しながら、研究を継続していく。 ・多様な子ども達が安心して学べる学級づくりに向けて、職員で共通理解をしながら人的環境ユニバーサルデザインの意識をより充実したものにしていく。 ・コミュニティ・スクールの初年度として、学校運営協議会を中心に学校運営及び教育活動を推進していく。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「夢をもち、明るく笑顔で生き生きとチャレンジする児童の育成」</p> <p>～たくましく ゆたかに ひびけ われら若楠～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>○明るく共生する子どもを育てる「心の教育の推進」</p> <p>○かしこく創造する子どもを育てる「学力向上の推進」</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・マイプランに掲げた取組に対して、日々の実践後に定期的に振り返りを行う。	A	・マイプラン成果指標達成者の割合は95%であり、目標を達成できている。今後は校内研修での具体的な見直しを行い、来年度の取組みにつなげていく。	A	・中間評価より伸びが見られ、結果を評価する。 ・全職員の心が一つになり取り組んだ結果が実った感じである。来年度更なる一歩前進を期待している。 ・マイプランの内容を一度見ていただきたい。	知育成部
	○基礎学力の定着	○評価テスト(国語科・算数科)の知識・技能観点において、到達度80%を超える。	「学習のかまえ」を全校で徹底する。 ・毎週金曜日のスキルタイムで、算数科での前学年からの基礎基本の定着を図る。 ・算数の文章問題では、問題文に印を入れて考える活動を取り入れる。 ・条件を提示して文章を書く活動に取り組む。 ・学びやすい環境作り(UD化・自学の掲示)	A	・2学期末までの評価テストの到達度は、国語・算数共に88.8%であり、前回の指標を上回っていた。学習理解作りや既習内容の習熟においては成果が表れたが、全校で徹底する「学習のかまえ」は十分ではないため、今後は、より主体的で効果的な習熟方法を探っていく。 ・「学びのプラン」が学習に役立った」と回答する児童の割合は91.1%と上昇した。校内研修や授業において学習スタイルや評価方法の在り方を振り返りてきた成果が表れていると考える。今後は内容の厳選・見直し等を行いながら「学びのプラン」活用をしていく。	A	「学びのプラン」が学力向上にしっかりと効果が出ているようだ。児童が役に立っていると回答していることが十分活用されている証拠である。 ・子ども達が目標に向かって着々と努力している姿が見えるようで嬉しい。来年度も更に期待している。 ・学力において日々の先生方の根気強い指導と子ども自身の努力が向上に繋がるので、今後も課題をクリアしながら引き続き熱心な指導を期待している。 ・学習は予習・復習が要であるが、特に子供達の間違えた所を重点的に復習して頂けると、良い学習に繋がると思う。 ・今後の課題とされている「学習のかまえ」の徹底を進めてほしい。 ・学年を追ってアンケート集計結果を見ることができ、定着しているかを確認できるのではと考える。 ・「学びのプラン」の活用方法とはどういったものか、個人差はあるのだろうか。	知育成部
●心の教育	○単元を通して身に付けたい資質・能力を見通す「学びのプラン」を取り入れた授業作りの推進	○「学びのプランが学習に役立った」と回答する児童の割合が90%以上。	・「学びのプラン」を取り入れた授業作りを実践する。	A	・「学びのプラン」を取り入れた授業作りを実践する。	A	・「学びのプラン」を取り入れた授業作りを実践する。	知育成部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学級の友だちのいいところを見つけることができる」と回答する児童90%以上 ○「クラスの仲間の誰かが失敗したり、困ったりしているときに、声を掛けたり助けたりすることができる」と回答する児童90%以上	・子どもの理解を基盤とした人的環境のユニバーサルデザインを意識した学級づくりを行うために、人権・同和教育の視点に立った授業を積極的に取り入れ、「特別の教科 道徳」を要として豊かな心、いのちを大切にすることを育てたりする。 ・認め合う、高め合う仲間への感謝の気持ちを育むために、「学級、学校ほかほか貯金」の取組を行う。職員による児童のよさ見つけも行う。児童の自己肯定感を高める。 ・ひびき活動(縦割り活動)での異学年交流を通して、思いやる気持ちや協力する態度を育てる。	A	・「学級の友だちのよいところを見つけることができる」と回答した児童が、91.5%であった。「学級、学校ほかほか貯金」の掲示や紹介を行うことで、児童の自己肯定感を高めることができよう。来年度もこの取組は、継続して行っていきたい。 ・認め合う、高め合う仲間への感謝の気持ちを育むために、「学級、学校ほかほか貯金」の取組を行う。職員による児童のよさ見つけも行う。児童の自己肯定感を高める。 ・ひびき活動(縦割り活動)での異学年交流を通して、思いやる気持ちや協力する態度を育てる。	A	・ほかほか言葉という言葉の大切さを感じ取れている児童が多いことが、9割以上の良いアンケート結果を生んでいて素晴らしい。学年やクラスに関係なく、子ども達が仲良く関係を築ける所をよ目にする。誰かに指示されてからではなく、自然と友達に寄り添う姿は感動する。 ・低学年のうちはどうしても体も未熟な為、自己中心的に他者を排除したり相手を傷つけたりする言葉を簡単に言う姿を見ることが多いが、高学年になるにつれて、認め合う心をもつことができるようになり、友達を助けた低学年の力にふたたりしている姿を見ると成長を感じる。 ・今後は「自らのネガティブ部分」をどう自覚し、どう受け止めるか、また生命の尊重に逆行する事象をどう理解していくか。このような視点が加味されると「全体」を豊かに心がけることができるだろう。 ・児童のアンケート以外で、職員目録で1年間を通して児童の変化を感じることはあるか。	心育成部
●健康・体づくり	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止について、組織的に対応することができている」と回答する教員85%以上 ○「学校が楽しい」と回答する児童90%以上	・年5回のほのアンケートを行い、児童の学校生活の実態をつかみ、いじめの未然防止に努める。 ・教育相談月間(6月)を年1回設け、担任が全児童に面談を行う。 ・年2回のQ-Uテストの実施、及び研修会をする。年2回の要保護児童の観察を行う。それらを基に児童の実態を把握する。 ・若楠小「いじめの約束」をもとに、自分の約束を毎学期学級で書き出し、いじめをしない意識を高める。 ・年10回のスクールカウンセラーとの連携を通して、支援を必要とする児童への対応を充実させる。	A	・「いじめ防止について、組織的に対応することができている」と回答する教員が100%と、組織的に対応できていると考えていることがわかる。ほのほのアンケートやQ-Uアンケートを行い、児童の学校生活の実態をつかむことで、いじめの未然防止に努めることができた。 ・「学校が楽しい」と回答する児童が94.1%であった。今後も児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整えていきたい。	A	・組織で取組ができているという結果であり、大変良い。結果を評価する。 ・低学年を見ると、自分のしていることがいじめと分からず他者に接している児童を少なからず見かけるが、高学年になるときちんと自分のしていることを理解できるようになり、態度や言葉かけを気付けられるようになっているようだ。 ・いじめ防止が組織的に対応できているとの回答が100%と素晴らしい。いじめは子供にとって計り知れない弊害をもたらす。学校が楽しいと思う子供が多い程、いじめは減っていくものと考えます。ますます良い雰囲気の良い学校になるようお願いする。 ・日頃からの先生方の努力と気配りとの結果だと感じる。9割以上の子どもが学校が楽しいと感じているのが今後の子ども達の成長に良い影響をもたらすであろう。 ・いじめは100%いじめの側が悪い、その為にもいじめ0運動」は非常に大事なことと思う。 ・「学校が楽しい」と回答する児童が100%となるのは大変と思うが、100%目指して環境整備をお願いする。また5.9%の児童へのフォローもお願いしたい。	心育成部
	○特別支援教育の充実	○「支援を要する児童のニーズに応じた取組を行った」と回答する職員90%以上	・年5回の子ども支援会議で、支援を要する児童の情報交換・共通理解を行う場を設ける。必要に応じて職員連絡会で職員への連絡をタイムリーに行う。必要に応じて、支援会議を開き適切な支援ができるように方策を立てる。 ・特別支援教育のスキルアップを図るために、講師招聘による研修を実施する。 ・授業のUD化へ向けた学習環境づくり、授業づくりを全学級で共通して実践する。 ・障害の理解を促すために学年に応じた話をする機会を設ける。	A	・「支援を要する児童のニーズに応じた取組を行った」と回答した職員が100%であった。支援を要する児童へ個別に対応していることがわかる。今後も研鑽を重ねていきたい。 ・毎週職員連絡会後の教育相談の時間を取ることで、支援を要する児童だけでなく、気になる児童の行動について全職員で共通理解を図ることができた。	A	・結果を評価する。研鑽を重ねる全職員の皆様に感謝する。 ・支援の児童のニーズに応じた取組を中間評価からさらに強化し100%の対応となっていることが、先生方の意識の高さを感じる。 ・支援を要する児童のお世話は大変なものがあると思うが、まずまずの思いやりのお世話を願いたい。 ・誰もそれぞれ個性がある。どんな子どもも本人しかもたない素晴らしい面がある。それを認め尊重し伸ばし続け出さなければ存在の先生方の存在は本当に大きいと思う。全職員の共通理解を図ってほしい。 ・支援を要する児童について、全先生方の共通理解がなされていると思う。その児童の行動パターンやニーズなど、各先生方がそれぞれ理解し協力されていると感じた。	心育成部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「運動習慣の改善や定着化」	●「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」の児童80%以上	・朝の時間や休み時間以外で遊んだりマラソンをしたりすることを呼び掛ける。 ・児童会で体育行事、おはようタイムのマラソンを実施する。	A	・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」と回答した児童が88.5%だった。休み時間には教員を含めたさんの児童が外で遊んでいる。スポーツフェスタなどの企画を増やし、さらに増えよう働きかけていきたい。	A	・今年も若楠小伝統のマラソン大会が実施されていた。コロナ禍にも継続しての実施はさすがに、継続はまさに力である。 ・「健全な精神は健全な肉体に宿る」と言われる。子どもも健康が大事。元気な子どもの為に運動・スポーツは少しでも多く時間を作ってほしい。 ・興味のある児童が多いのは素晴らしい。運動が苦手という児童に少しでも興味を抱かせる試みも期待。	体育成部
	○歯科保健の充実	○「1日3回以上歯みがきをしている」と回答する児童75%以上	・給食後の歯みがきタイムを全校で実施する。 ・歯と口の健康に関する保健だよりや提示物を作成し、児童と保護者が歯科保健の知識を増やす手立てを行う。	A	・「1日3回以上歯みがきをしている」と回答する児童が90.8%と目標値を大きく上回った。取組について継続しながら歯と口の健康の大切さを伝えていきたい。	A	・給食後の歯磨きが定着しているのだと数字を見て分かり、低学年の先生が子ども達に声かけしている様子もよく見かける。 ・歯磨きをちゃんとして定期的に歯科に通ったりして、歯の大切さを理解している児童、保護者が増えているように感じる。 ・虫歯の発生率も下がっているのだろうか。	体育成部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○下校時刻16時を共通理解し、各部の打合せ等の時間を確保する。	・月ごとの時間外勤務集計表を作成し、回覧をしよう意識付けを行う。 ・適正チェック表を使い、全職員で業務改善を検討していく。	A	・9月以降、1ヶ月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の職員の割合が96%だった。定時退勤日の徹底及び会議の開始時刻の遵守、更なる会議の削減・効率化を図ったことで、大幅な伸びが見られた。職員の意識も高まっており、来年度も更なる業務改善を行っていく。	A	・職員の意識が高まっていることを評価。職員からの短時間のアイデアなどが気軽に出来るような職場環境を期待。またDXを進めるなど今後の改善を願う。 ・職員の業務は大変さを増す中、時間内及び時間外の勤務はよほどの創意工夫が必要と思うが、職員の意識・意欲の高まりは有り難い。管理者は目配り・対話を忘れず願う。職員の有休取得の状況はいかがだろうか。	教務部
	○タイムマネジメント・タスクマネジメント能力の向上	○「タイムマネジメント・タスクマネジメントを意識して業務に取り組むことができた」と回答した職員70%以上	・仕事に優先順位をつけ、計画的に効率よく取り組む。 ・仕事のゴールを決めて取り組む。	A	・「業務の効率化は進んでいる」91.7%、「タイムマネジメント・タスクマネジメントを意識して業務に取り組むことができた」91.7%と高い数値結果となった。特に業務の効率化に関しては、中間評価より18.7%伸びており、見通しもち計画的に仕事に取り組む意識が浸透してきたことが時間外勤務時間への反映となった。	A	・仕事と時間をどう効率良く管理するかが問われているが、着々と成果が出ているような感じである。結果を評価する。更に頑張ってください。 ・中間評価より大きく伸びている業務の効率化は一人一人の先生方の努力と相互協力も必要だと考えられるので、職場の環境もより良くなっているのだと思われる。 ・「タイムマネジメント」と「ストレスマネジメント」の統合が求められる。	教務部

評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎「自分の夢や目標に向かって努力しよう」と回答する児童90%以上	・道徳・特別活動を中心に、生き方について考えさせる授業を年間1回以上実施する。 ・自らの夢や目標に向かう取り組みについて振り返りを年間1回以上行う。	A	・「自分の夢や目標に向かって努力しよう」と回答した児童は96.1%であった。「学びのプラン」の定着により、目標を意識する習慣が身に付いていると考えられる。	A	・中間評価より数値が上がり、「学びのプラン」が夢や目標より明確に感じることが出来る効果が発揮していると感じる。更に頑張ってください。 ・小学生の子ども達が自分の夢や目標に向けての努力を向上していく姿は頼もしい。意識する習慣が身に付き継続して自分のものにするフォローをお願いしたい。 ・低学年は先だけ先の目標、高学年は〇年先の目標をもって努力するようにするなど、学年に応じて取り組むとよいと思う。全て肯定して聞いてあげてください。	知育成部
○地域との連携の充実	○家庭・地域との連携・協働を強める学校づくり	○地域行事への参加を促進し、「地域の行事へ進んで参加した」と回答する児童を80%以上にする。	・地域と連携を取り「むつみ会」「ゴジラの会」「地域子ども教室」等の活用を拡大する。 ・放送や学校便り、ホームページなどで、保護者や児童に地域行事を周知し、積極的な参加を促す。	B	・「地域の行事へ進んで参加した」と回答した児童は67.2%だった。保護者についても中間評価より6%伸びた。コロナ禍でも、行事等が通常通りに行われるようになってきているので、コロナが終息すれば、更に安心して参加させる保護者、参加する児童が増えると思われる。	B	・コロナでここ3年間、地域との関わりが薄くなってしまったのは事実。今後少しずつコロナ以前の活動に戻れば自ずと目標が達成できると思う。今後も先生方、保護者の方々、地域の皆様と連携して、学校が楽しいとなるよう子供達をサポートしていきたい。 ・家庭・地域の主体的な動きが期待される。学校の期待に地域がどの位応えているか、応えることができるのか、応えようとの意識がどの程度あるのか、「相互性」の視点が必要である。	教務主任

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>学校運営協議会において学校の現状や今年度の取組について、説明したところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、11項目のうち10項目においてA評価「十分達成できている」をいただいた。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。次年度に向けて、以下の点を改善していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師だけでなく児童自身が、単元を通して身に付けたい資質・能力を見通す「学びのプラン」の作成と活用を継続し、全職員で共通理解しながら研究を推進していく。 ・多様な子ども達が安心して学べる学級づくりに向けて、まずは「学習のかまえ」を年度当初共通理解を全職員で意識しながら徹底を図り、より充実した学級経営を行っていく環境を整えていく。 ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を中心に地域との協働により学校運営及び教育活動を更に推進していく。
----------------	--